

ミュージアム県 ながさき

09 History and Culture of Nagasaki
2020 Spring



【特集②】
隠元禅師と黄檗文化

【特集①-1】
日本のマリア像展
【特集①-2】
浦上のキリシタン



Information

インフォメーション



長崎県美術館

〒850-0862 長崎市出島町2-1
☎ 095-833-2110
🕒 10:00~20:00(最終入場は30分前まで)
📅 第2、第4月曜日(祝日の場合は火曜日が休館)、年末年始
🌐 <http://www.nagasaki-museum.jp/>
🐦 @nagasaki_museum



長崎歴史文化博物館

〒850-0007 長崎市立山1-1-1
☎ 095-818-8366
🕒 8:30~19:00(12~3月は、8:30~18:00)
📅 第3月曜日(祝日の場合は翌日) ※その他メンテナンスのため休館する場合があります
🌐 <http://www.nmhc.jp/>
🐦 @ngs_rekibun 📘 <http://www.facebook.com/rekibun/>



壱岐市立一支国博物館

〒811-5322 長崎県壱岐市芦辺町深江鶴龜触515番地1
☎ 0920-45-2731
🕒 8:45~17:30(最終入館は30分前まで)
📅 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)
※GWおよび夏休み期間中は無休 ※12月29日~31日休館
🌐 <http://www.iki-haku.jp/>



長崎市旧香港上海銀行長崎支店記念館 長崎近代交流史と孫文・梅屋庄吉ミュージアム

〒850-0921 長崎市松が枝町4-46
☎ 095-827-8746
🕒 9:00~17:00(最終入館20分前まで)
📅 第3月曜日(祝日の場合は翌日)
🌐 <http://www.nmhc.jp/museum/>

究める・つなげる「長崎の歴史」魅力発信事業 長崎を学ぶウェブサイト

長崎県歴史・文化ポータルサイト ながさき歴史・文化ネット

長崎県内のミュージアム(美術館、博物館、動植物園、水族館など)・文化ホールを施設分類やエリア、分野で検索する事ができ、各施設の基本情報のほか、展覧会や講演会などのイベント情報も見ることが出来ます。県内ミュージアムの見学やイベントをお調べの際にご活用ください。あわせて、各施設の専門家などによるコラム(月に1度更新)や、本情報誌など読み物もたくさん掲出しています。 <http://nagasaki-bunkanet.jp/>



無料アプリ ながさきミュージアム



長崎県文化振興課の公式アプリケーション。長崎県内のミュージアムや文化施設を完全網羅し、開催中のイベント情報や施設情報を確認できます。また、最旬のイベント情報をプッシュ通知でお知らせします。

App StoreまたはGoogle playで

旅する長崎学 TABINAGA

長崎県の歴史・文化をわかりやすく楽しく学び、歴史の旅に出かけたくなるような「歴史の旅と游学サイト」。「長崎Web学会」など最新の情報を随時掲載。
<http://tabinaga.jp/>



2013年(平成25)2月に創刊しました本誌では、本県の特徴ある歴史や文化を、ミュージアム施設を中心として紹介しています。
 ポータルサイト「ながさき歴史・文化ネット」(<http://nagasaki.bunka.net.jp>)、
 そして「旅する長崎学」(<https://tabinaga.jp>)とあわせて、県民の皆様をはじめ、
 県外から観光等でお越しになられる皆様に気軽にご利用いただけましたら幸いです。
 2020年(令和2)2月 長崎県文化観光国際部文化振興課



目次

- 2 特集①-1 日本の聖母マリア像展
- 7 特集①-2 浦上のキリシタン

隠元禅師と黄檗文化

- 15 連載 ミュージアムの人々
小値賀町教育委員会 平田賢明さん

- 16 ミュージアム逸品紹介①
大村市歴史資料館

- 17 ミュージアム逸品紹介②
三川内焼美術館

- 18 自慢の体験プログラム
がまだすドーム(雲仙岳災害記念館)

建物探訪

雲仙市神代小路重要伝統的建造物群保存地区

地域班の取り組み

若者アートLOVEながさき創造プロジェクト

スペシャル・トピックス

今に息づく黄檗文化と隠元禅師

【特集①-1】開催記録

ローマ法王来県

世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」

特別企画

日本の聖母マリア像展

東京国立博物館所蔵キリシタン関連遺品を中心に

展示期間 / 2019年11月9日(土)~12月7日(土)
 展示会場 / 長崎歴史文化博物館 3階企画展示室 第4室
 主催 / 長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産 企画実行委員会
 (長崎県、長崎市、長崎歴史文化博物館)

令和元年11月24日、ローマ教皇フランシスコ台下が来県され、原爆落下中心地で平和のメッセージを長崎の地から世界へ発信していただきました。教皇としての来県は、1981年(昭和56)の故ヨハネ・パウロ2世以来38年ぶり2度目。世界的にも希有な出来事となりました。

そこで長崎県・長崎市・長崎歴史文化博物館では、フランシスコ台下の長崎県御訪問と「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」のユネスコ世界文化遺産登録1周年を記念し、特別企画「日本の聖母マリア像展——東京国立博物館所蔵キリシタン関係遺品を中心に——」を11月9日から

VirgIn
 MaIry
 Notre-Dame
 Madonna
 Unsere Liebe Frau
 Our Lady

ローマ法王来県 特別企画 | 日本の聖母マリア像展
 ——東京国立博物館所蔵キリシタン関係遺品を中心に——

2019 11.9sat-12.7sat

長崎歴史文化博物館 長崎県歴史文化博物館
 開館時間 10:00~17:00(入館は16:30まで)
 休館日 11月23日(日)
 観覧料 無料
 主 催 長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産 企画実行委員会
 (長崎県、長崎市、長崎歴史文化博物館)

12月7日まで開催しました。

本展覧会では、聖ザビエルの宣教開始から、禁教・弾圧、潜伏、そして信徒発見・再布教期までの長きにわたってキリシタンの心の拠り所となっていた「聖母マリア」について、その崇敬の歴史、イメージの変遷を紹介しました。



オープニング式典でのテープカット(11月8日)

主会場となった3階企画展示室では、長崎にゆかりのある「キリシタン関係遺品（東京国立博物館所蔵）を中心に、国重要文化財31点を含む53点を展示し、6章構成で県内外のキリシタンが伝えた「聖母マリア」像を展示し、県民市民の皆様へはもちろんのこと、教皇フランシスコ台下の御来県を機に当地へお越しいただいた多くのかたがたにも、長崎県の特長ある歴史や文化の魅力を知っていただける機会となりました。

展示構成

- 1章 長崎（長崎奉行所）ゆかりの聖母像
- 2-1章 千提寺・下音羽に伝わる聖母の姿
- 2-2章 福井に伝わる聖母の姿
- 3章 シドッティと聖母像
- 4章 浦上三番崩れとマリア観音
- 5章 生月・平戸系、外海・五島・長崎系の潜伏キリシタンのマリア崇敬
- 6章 パリ外国宣教会の再布教と浦上四番崩れに見るマリア崇敬



内覧会（2019年11月8日）の様様 当日、140人が参加



会場入口から展示室内を望む



銅牌や鉛牌、メダルなどを展示した中央のケース



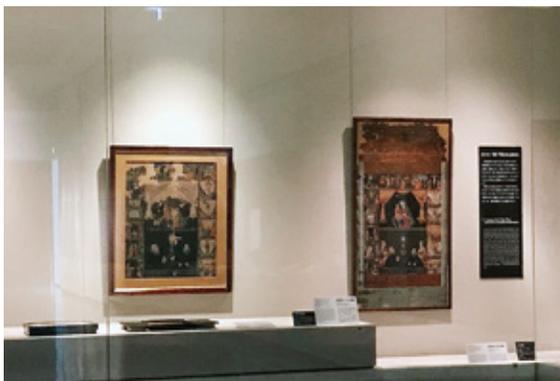
会場内全体



《三聖人像》(右)と《三聖人像(模写)》(左)

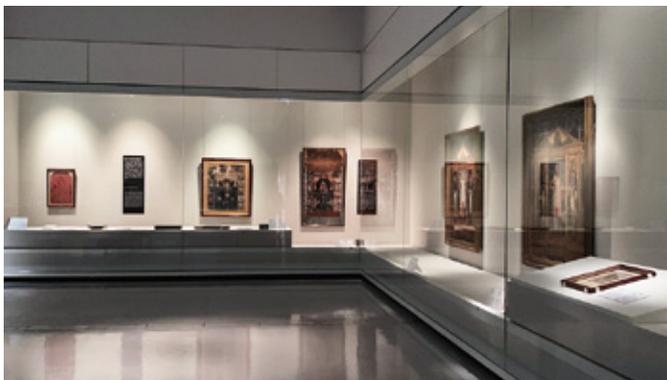
1章では、布教期に海外からもたらされた聖画類《聖母子像（雪のサントマリア）》や《三聖人像》などのほか、日本人が模したとされる《三聖人像（模写）》や1597年（慶長2）、有家のセミナーヨで日本人画学生の手で印刷されたと考えられる《セビリアの聖母》（カトリック長崎大司教区蔵）を紹介しました

2-1章では、キリシタン大名・高山右近（1552? - 1615）にゆかりのある大阪府北部茨木市の千提寺・下音羽地区で発見されたキリシタン遺物にみえる聖母像として、オリジナルの作品がともに並ぶことが稀な《紙本著色マリア十五玄義図》（個人蔵、茨木市立文化財資料館保管）や《紙本著色聖母十五玄義・聖体秘跡図》（京都大学総合博物館蔵）を展示しました。



《マリア十五玄義図》（東家本・個人蔵）（左）と《聖母十五玄義》（原田家本・京都大学総合博物館蔵）（右）

2-2章では、京極高次（1563 - 1609）・高知兄弟やその姉妹・両親などキリスト教信者の多かった京極家ゆかりの福井県三方郡で発見された《聖母子図》（南蛮文化館蔵）を展示しました。これらはいずれも16世紀末から17世紀初期に西洋画を学んだ日本人の手による作品とみられています。



1章から2-1/2-2章までの展示作品



《悲しみの聖母》(中央)と《聖母像(親指のマリア)》(左下)

3章では、聖母についての代表作となっている2作品「禁教下の1708年（宝永5）にイタリア人宣教師ジョヴァンニ・シドッティ（1667 - 1714）が日本に潜入した際の携

行品であった《聖母像（親指のマリア）》とあわせてカルロ・ドルチ《悲しみの聖母》（国立西洋美術館蔵）を比較できる展示も実現しました。



11月27日から追加展示したフランススコ台下特別観覧の作品



《ロザリオ》や《メダイ》を展示した6章のコーナー



《マリア観音像(ハンタマルヤ像)》
旧所有者名を記した墨書・付札などもある。

続く4章は、長崎浦上村山里の潜伏キリシタンたちが各家々に秘蔵し、聖母マリアのイメージを投影させていた白磁の観音像《マリア観音像(ハンタマルヤ像)》6体を展示しました。これらは1856年(安政3)に発生した浦上村潜伏キリシタンの検挙事件「浦上三番崩れ」の際に押収され、長崎奉行所へ収納されたものです。



《館浦黒田家隠居 お掛け絵「受胎告知」》(平戸市生月町博物館・島の館寄託)



《旧堺目「お札」》(平戸市生月町博物館・島の館蔵)



聖母の保護を受ける護符として信徒が肌身離さず用いた
《守裂(スカブラリオ)》(東京国立博物館蔵)



重要文化財《聖母像》19世紀 ヨーロッパ製(東京国立博物館蔵)

5章では、世界文化遺産の各構成資産(集落)のうち、生月(平戸市)に伝わる《お掛け絵》や《お札》、外海地区(長崎市)に伝わる《教会歴史線帖》や《メダイ》などの信心具が物語る「聖母マリア像」を紹介しました。
結びの6章では、開国後の日本における「信徒発見」後の再布教期、東アジアの布教を担っていたパリ外国宣教会によって新たに国内へもた

らされた近代の信心具、石膏製の《聖母像》や《守裂(スカブラリオ)》、《ロザリオ》、《メダイ》などを展示しました。
ここで展示した近代の信心具は、1867年(慶応3)に浦上の潜伏キリシタンから長崎奉行所に収納したもので、幕末から明治初年にかけて大弾圧事件に発展した「浦上四番崩れ」における押収品で

会期終盤の11月27日からは、ローマ教皇フランシスコ台下の長崎御来訪時(24日)に特別観覧をされた《マリア観音像(帳方吉蔵旧蔵)》や《ロザリオ》など五作品を追加展示し、12月7日をもって好評のうちに閉会となりました。

コンパクトな会場ながら、全展示作品のうち7割以上を指定文化財が占めた本展覧会は、「日本の聖母マリア像」について濃密な展示を実現できたものと考えています。

このほか二階のエントランスホールでは、「浦上のキリシタン―弾圧と復興の歴史」と題して長崎市浦上地区のキリシタンが歩んだ歴史を写真パネルで紹介しました(次頁参照)。
なお、長崎にゆかりのある「キリシタン関係遺品」については、平成17年の長崎歴史文化博物館開館以来、東京国立博物館の御協力を得て、常設展示ゾーンである奉行所展示室での通年公開を続けています。



1階エントランスの関連展示「浦上のキリシタン」

東京国立博物館 「キリシタン関係遺品」

キリシタンを摘発するための「踏絵」、宣教師たちが持参した聖画、浦上三番崩れ、浦上四番崩れの際の押収品などキリスト教に関わるものは、長崎奉行所立山役所の宗門蔵で明治初め頃まで厳重に管理されており、1870年(明治3)、浦上四番崩れの配流先で信徒が身につけていた信心具は没収され、長崎県へ送り返されました。

これら遺品類は1874年(明治7)、長崎県から東京の教部省へ移管され、内務省社寺局、同省博物局、博物館を管轄する農商務省、宮内省を経て1889年(明治22)設置の帝国博物館(1900年、皇室博物館と改称)所蔵となり、戦後、東京国立博物館に移管され、1977年(昭和52)には「長崎奉行所旧蔵」の資料を中心に「長崎奉行所キリシタン関係資料」の名称で国の重要文化財に指定されました。

【特集①ー2】関連展示

浦上のキリシタン

—— 弾圧と復興の歴史 ——

特別企画「日本の聖母マリア像」展の関連展示として、長崎歴史文化博物館1階エントランスホールでは、「キリシタン関係遺品」の出自のひとつである長崎市浦上地区のキリシタンが歩んだ歴史を写真パネルで紹介しました。



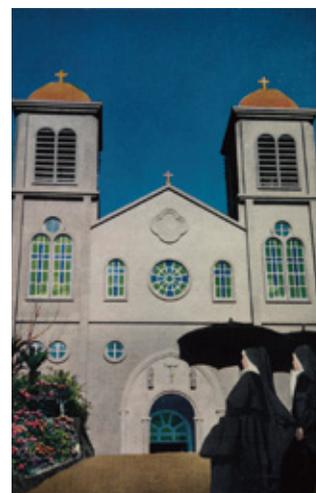
改装された天主堂
(個人蔵 写真絵葉書)

1980年(昭和55)、浦上天主堂の改装工事が完成。外壁を赤レンガタイルで張り、「赤レンガ」の美しい天主堂としてよみがえった。



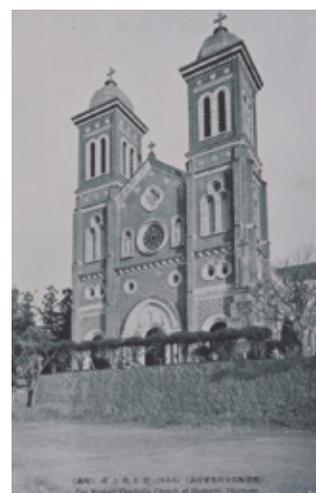
双塔のない天主堂(正面) (長崎歴史文化博物館蔵)

1914年(大正3)、天主堂の献堂式がおこなわれた。ただし双塔は未完成。正面下層部は、色の濃いレンガでたくさんの十字架が表現されていた。



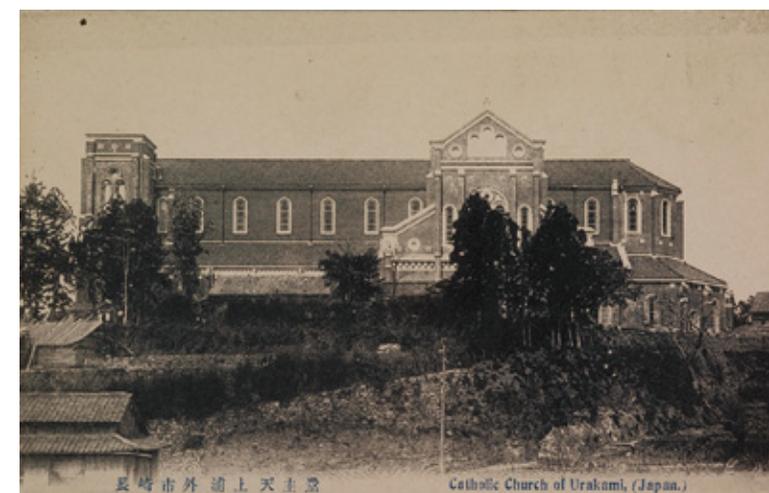
再建された天主堂 (長崎歴史文化博物館蔵)

1959年(昭和34)、鉄筋コンクリート造の再建浦上天主堂が完成した。



双塔が完成した天主堂(正面)
(長崎歴史文化博物館蔵)

1925年(大正14)、天主堂の双塔が完成。



双塔のない天主堂(南側から) (長崎歴史文化博物館蔵)

双塔がまだ完成していない天主堂。



《お祈り》(撮影 西郷次郎 個人蔵)

昭和戦前期の天主堂内部にて祈りを捧げる浦上の信徒たち。



被爆前の天主堂内部
(長崎歴史文化博物館蔵)

天主堂内の正面の祭壇は、1934年(昭和9)に浦上の信徒から寄贈されたもの。



堅信式の後 (バリ外国宣教会発行 個人蔵)

1920年(大正9)は浦上キリシタン配流50周年の年だった。その年におこなわれた堅信式のあとの集合写真。この写真には総勢523人の信徒が写っている。



天主堂正面から出てくる
シスターたち

(長崎歴史文化博物館蔵)

1918(大正7)～1932(昭和7)ころ

【特集②】 隠元禅師と黄檗文化

江戸時代初期、隠元禅師をはじめとした僧侶や文化人らによってもたらされた、当時最新の中国の文化（明清文化）を黄檗文化といえます。日本に取り込まれた黄檗文化は、やがて新しい日本の文化を生み出す源泉となりました。

室町時代中期以降、中国からの渡来僧は激減し、さらに江戸時代の鎖国体制により外国からの文化面の刺激が少なくなりました。こうした状況下で、日本の文化は閉塞感を強めつつありました。隠元は、この閉塞感を打ち破る存在だったと言えます。

隠元渡来以降、宗教や生活など、様々な面で文化交流が盛んになり、

その成果は日本に完全に定着しました。私たちの身の回りにおけるそれら成果を見直してみたいと思います。

「隠元禅師とは？」

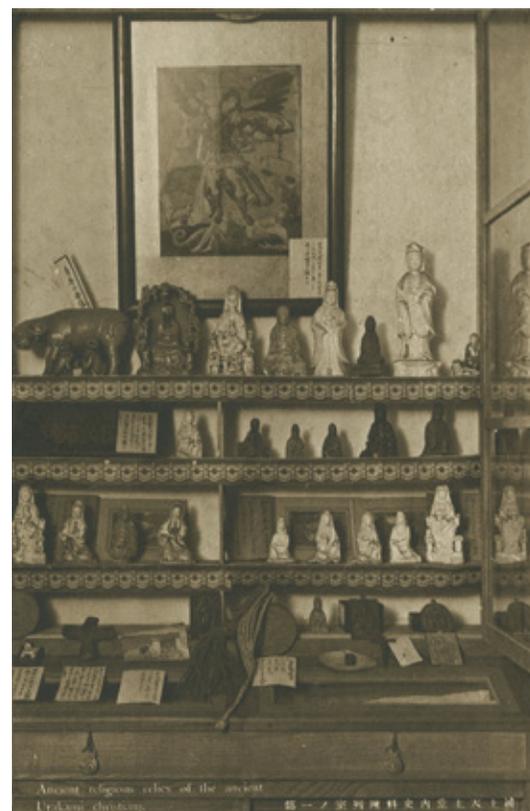
隠元隆琦(1592-1673)
中国福建省生まれ。俗名は林曾炳。明清交替期に黄檗山萬福寺(福建省)の住職を務めた。慈悲深く、高い学識と芸術性をあわせ持った当時の禅宗界をリードする高僧。
江戸時代初めに日本に渡来し、「黄檗宗」の開祖となる。また、隠元豆や煎茶の習慣など、当時の中国から多くの文物を日本にもたらした。



《隠元禅師》
長崎歴史文化博物館蔵



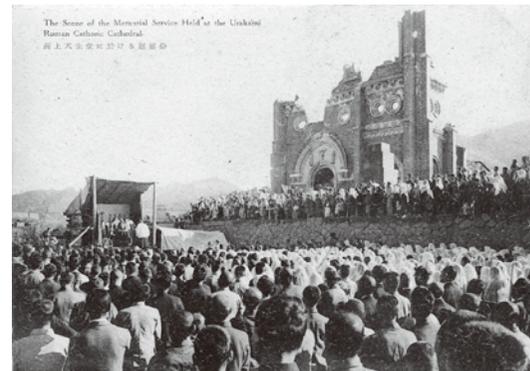
原爆にて焼失した大天使ミカエル像(長崎歴史文化博物館蔵)
史料陳列室にならんでいた「大天使ミカエル」像の写真。この絵は原爆によって焼失した。



陳列室にならぶ史料群(長崎歴史文化博物館蔵)
浦上天主堂史料陳列室にならぶ数多くの史料。浦上の信徒から寄贈されたものか。中央上に大天使ミカエル像が見える(左参照)。1918年(大正7)~1932(昭和7)ころ。



被爆4年後の仮聖堂(長崎原爆資料館蔵)
被爆した天主堂の南側に、1946年(昭和21)、木造の仮聖堂が建てられた。原子野に毎日ミサがさげられることとなった。1949年(昭和24)5月29日撮影



被爆3ヵ月後の浦上天主堂(長崎原爆資料館蔵)
1945年(昭和20)11月23日、被爆死者の追悼ミサが行われた。天主堂正面から下りたところに、南向きに祭壇が設けられた。この日600人の信徒が参加したといわれている。



《かぎやおせん》(北尾重政筆、東京国立博物館蔵)



普茶料理

隠元が伝えた中国風の精進料理。油を多用するのが特長で、その調理法は極めて洗練されています。卓袱料理のルーツの一つとなりました。



煎茶道の点前 日本礼道小笠原流



卓袱料理

ゴマ豆腐

元々は中国生まれの精進料理。隠元が普茶料理中の一品としてもたらしました。一般的な豆腐の製法とは異なり、ゴマの風味とねっとりとした食感が特徴です。



日本に定着した 黄檗文化



隠元豆

隠元らによりもたらされた豆は、隠元豆と呼ばれ、今も身近な食材です。



《唐人食卓》長崎歴史文化博物館蔵

食卓

従来日本人の食事は一人ずつに用意されたお膳で行われるのが一般的でしたが、黄檗文化によって四角い卓子(テーブル)がもたらされました。卓子ほのちに、長崎名物・卓袱料理にかかせない円卓となりました。さらにその後、卓子はちゃぶだいのルーツとなります。



お膳

西暦	中国でのできごと	日本でのできごと
1592年	隠元、福建省に生まれる。	豊臣秀吉が朝鮮出兵を開始 (文祿・慶長の役のはじまり)
1592~3年	文祿・慶長の役を 速因として明が弱体化	
1603年	隠元、出家	江戸幕府成立
1620年		長崎最初の唐寺、 東明山興福寺開創。(諸説あり)
1626年	隠元、悟りをひらく。	唐寺の福濟寺(1628年開創)、 崇福寺(1629年開創)、 と合わせて長崎三福寺と呼ばれる。
1633年		興福寺2代住職 (1635年就任)の黙子、 長崎中島川眼鏡橋を架造。
1634年		
1637年	隠元、黄檗山萬福寺 (福建省)の住職となる。	鎖国体制完成
1639年		
1642年	『隠元禪師語録』出版 大ヒット。 以後生涯にわたって 逐次続編が出される。	
1644年	明朝滅亡。 清朝、北京に都をうつす。	
1648年	隠元、竜泉寺 (福建省)の住職となる。	隠元の弟子、也懶の 友人である唐僧の無心が 日本に渡来
1649年	隠元、再び萬福寺 (福建省)の住職となる。	無心、也懶を日本に招く。 しかし也懶は船が難破して死亡 またこの年、輸入された 『隠元禪師語録』が京都の仏教界で センセーションを巻き起こす。 以降、隠元の名は日本国内に 急速に広まることとなる。
1652~3年		興福寺3代住職、逸然を はじめとする長崎の唐人社会が 隠元に度重ねて渡来を要請
1654年	四度目の要請で ついに隠元中国を発つ。	隠元、長崎に上陸 興福寺や崇福寺で多くの言葉をのこす。 今は普照国師語録中に伝わる。
1655年		
1658年		隠元、慈雲山普門寺 (大阪府高槻市)に入る。
1661年		隠元、4代将軍、徳川家綱と会見。
1662年	鄭成功、台湾で没する。	隠元、黄檗山萬福寺 (京都府宇治市)を開創。
1664年		隠元、慈愛の説法 (この年、池を掘り放生する)
1673年		後水尾法皇より 大光普照国師号を授かる。 隠元 示寂

《年表》



《五百羅漢図》(池大雅筆 18世紀) 京都萬福寺蔵



《仙人掌鶏図換絵》(伊藤若冲筆) 西福寺蔵(提供 便利堂)

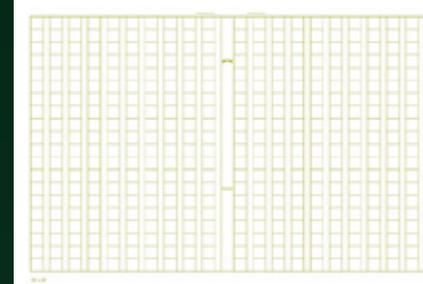


黄檗絵画

江戸時代、隠元とともに伝わった黄檗宗に関連する絵画のことで、中国明・清代の美術様式を継承し、鮮やかで強い色調、奇抜な表現が特長です。黄檗僧・逸然や日本人弟子の河村若芝、渡辺秀石らが長崎で活躍し、やがて江戸時代の絵画史に新しい様式として定着しました。日本人画の大成者・池大雅、多才の文人・木村兼葭堂、奇想の画家・伊藤若冲など様々な画人が黄檗絵画の影響を受けています。

原稿用紙

原稿用紙は、もともと中国の写経用のフォーマットであったとされます。黄檗版と称される黄檗宗独自の版木彫刻の基本型式から誕生したものです。今の原稿用紙同様に、20字×20行の400字で1枚、かつ真ん中にタイトルを記入できる書式となっています。



日本で広く使われている400字づめ原稿用紙



《鉄眼版一切経及び版木》宝蔵院蔵

明朝体

明朝体は、もともと中国における印刷用の字体です。その後黄檗宗独自の開刻技術によって発展継承され、我が国に定着しました。鉄眼禅師が作った一切経(大蔵経)の版木の書体が代表的なものとされます。文字を刻む場合は、一人が版木の全てを彫るのではなく、十人ほどの職人が横一列にならび、作業を進めるといいます。縦の線を彫る職人は縦線だけ、横の線を彫る職人は横線だけ、とそれぞれに専門の担当部分を受け持ち、流れ作業の方式で彫られたそうです。このために、非常に均整のとれた字体が誕生したのです。



三代目豊国筆《犬飼現八(三代目関三十郎)》早稲田大学演劇博物館所蔵

袈裟

色鮮やかな袈裟に包まれた黄檗僧の姿は人々の目をひき、江戸市中でまねることが流行しました。部分的に歌舞伎の衣装に取り入れられることもありました。「四天」と呼ばれるすがが四分割された袈裟など



おこそずきん

隠元頭巾

隠元が後水尾法皇から賜った袖を縫い合わせて作った頭巾を起源とします。頭頂部にその縫い目が来るように仕立てられています。のちに「御高祖頭巾」となり、大流行しました。



《韋駄天立像》所蔵者長崎・興福寺 撮影者山崎信一

黄檗様彫刻

黄檗宗の隆盛にともなって仏像が必要となり、多くの中国人仏師が日本に招かれました。彼らが製作したのは異国的な魅力を放つ仏像で、沈滞していた日本の彫刻界に新風を吹き込みました。その主な特長は、鮮やかな盛り上げ彩色を多用する高い装飾性と、木彫に塑土を用いる抑揚に富んだ表現です。



木魚

法具としてよく知られている木魚は黄檗派の僧がもたらしたもので、他宗派にも広まりました。



黄檗天井 (大殿回廊部分) 京都萬福寺蔵

黄檗建築

桃や蝙蝠などの中国意匠、唐様棧(中国では障子の棧の見える側が日本とは逆に外側に向けてはめられている)、蛇腹天井(黄檗天井ともい、龍の腹を表わしている)。本堂はじめ主要な建造物の軒下の垂木(一部)が丸いかまぼこ型をしている)などが特長です。伽藍(寺院内の建物)の配置も、明代の中国の特徴を色濃く残しており独特です。

ミュージアムの人々

子供たちに
小値賀の“好き”を
語れる人になってほしい



小値賀町教育委員会
文化財係長(学芸員)
平田賢明さん



旧野首教会(背後の島影は平戸島)



「+天地」銘石造物(舟森集落)
外海地方との関連をうかがわせる
貴重な石碑

小値賀町は西海に浮かぶ大小17の島々からなり、豊かな自然と歴史で知られています。その町でただひとりの学芸員として活躍されている平田賢明さんは、長崎市に生まれ県外の大学を卒業後、県庁の嘱託職員などを経て、平成22年に小値賀町に赴任しました。

赴任して早々の平田さんを待っていたのは、町内のキリスト教関連史跡を世界遺産へ登録するための大仕事でした。世界遺産登録に関しては、当初は町民をはじめ役場の職員のなかにも懐疑的な雰囲気もあったそうです。そのような状況のなかで新人学芸員だった平田さんは膨大な仕事量とプレッシャーに押しつぶされそうになりながらも、日々の仕事を進めていくしかありませんでした。そのとき平田さんの心の支えとなっていたのは「小値賀町が持つ歴史的資産は世界遺産に相応しい価値がある」という調査のなかで得た確信だったそうです。

特に国選定重要文化的景観「小値賀諸島の文化的景観」のひとつである野崎島の舟森集落跡は、それまで本格的な学術的調査が行われておらず、平田さんを中心とする小値賀町の調査によってその全貌が明らかにされていきました。舟森集落跡は外海地方からの移住者によって開拓された場所ですが、平田さんは古文書などの一次資料を読み込み、さらに入念な現地調査を実施し、その伝承を明らかにしていったのです。実際にその場に立つと、舟森集落跡からは海峡を挟んだ対岸の津和崎(新上五島町)の集落をしっかりと望むことができます。そこで平田さんはこれまでの「潜伏キリシタン=人目を避けて暮らす人びと」という固定化されたイメージに違和感をおぼえ、舟森集落跡(野崎島)、津和崎や立串の潜伏キリシタン集落、さらには外海からの移住ルートに位置する平島・江ノ島を交流のあったひとつの海域として捉え

ることの重要性を認識するようになったそうです。

2018年7月「長崎・天草地方の潜伏キリシタン関連資産」が世界遺産に登録され、そのなかには小値賀町の「野崎島の集落跡」も構成資産に含まれていました。平田さんは町内に設営されたパブリック・ビューイングでその感動を町民とともに分かちあったそうです。

世界遺産関係の仕事が一段落着き、

いま平田さんは新たな仕事にとりかかっています。それは子供たちを対象とする教育普及活動です。子供たちが小値賀の歴史と文化を知り、小値賀のどこが好きか自分の言葉で語るできるようになってほしいというのが平田さんの願いです。「小値賀出身ということに誇りを持って、都会に暮らしても、地元に残っても、堂々と胸を張って生きていける人になってほしいんです」と平田さんは笑顔で話してくれました。



舟森(瀬戸島)集落跡



潜伏キリシタンの墓地



舟森集落跡から上五島をのぞむ

その1 ミュージアム逸品紹介

大村市歴史資料館



大村市歴史資料館

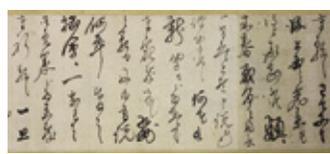


常設展示室内

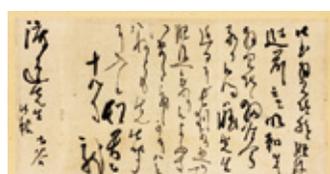
令和元年10月5日、大村市に開館した「ミライオン」。県と大村市が整備した県立・市立一体型図書館「ミライオン図書館(長崎県立長崎図書館・大村市立図書館)」と「大村市歴史資料館」の複合施設です。大村市歴史資料館は1階の南側にオープンしました。

資料館は「常設展示室」「企画展示室」「シアター」で構成されています。「常設展示室」では大村の原始・古代から近代までの歴史を史料や模型、映像で紹介

「ミライオン」には展示できるような資料も豊富です。展示できるような資料も豊富です。展示できるような資料も豊富です。



渡辺昇宛桂小五郎書状



渡辺昇宛坂本龍馬書状

令和元年10月5日、大村市に開館した「ミライオン」。県と大村市が整備した県立・市立一体型図書館「ミライオン図書館(長崎県立長崎図書館・大村市立図書館)」と「大村市歴史資料館」の複合施設です。大村市歴史資料館は1階の南側にオープンしました。

資料館は「常設展示室」「企画展示室」「シアター」で構成されています。「常設展示室」では大村の原始・古代から近代までの歴史を史料や模型、映像で紹介

資料館は「常設展示室」「企画展示室」「シアター」で構成されています。「常設展示室」では大村の原始・古代から近代までの歴史を史料や模型、映像で紹介

資料館は「常設展示室」「企画展示室」「シアター」で構成されています。「常設展示室」では大村の原始・古代から近代までの歴史を史料や模型、映像で紹介

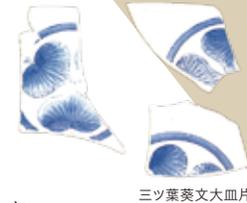


- 〒856-0831 長崎県大村市東本町481
- 0957-48-5050
- http://www.omura-dejihaku.jp
- 10:00~18:00
- 毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)
- 年末年始(12/28~1/5)
- 毎月の末日(土日祝日の場合は翌平日)
- 特別整理期間(10日間以内)
- 無料
- ミライオン図書館と併用

ミュージアム逸品紹介

三川内焼美術館

佐世保市教育委員会 文化財課
学芸員
溝上隼弘さん



三ツ葉葵文大皿片

によれば、万治2年(1659)に4代平戸藩主松浦鎮信(天祥)が徳川將軍家に染付皿300枚、鉢10枚を初めて献上したことが判明している。

江戸時代の諸大名は国元の産物などを將軍家へ例年献上することが義務付けられており、全国諸藩の中でも磁器を献上した藩は、平戸藩と佐賀藩の2藩のみであった。それはつまり三川

内皿山が優れた磁器製作者技術を保持していたことの証明であろう。さて、平成12年(2000)に三川



染付秋草文瓶

日本画の表現方法

内皿山の代官所跡で実施した発掘調査では、「三ツ葉葵文大皿片」という興味深い資料が出土している。残念ながら何らかの理由で破棄され、破片でしか出土していないが、この17世紀末〜18世紀初頭に製作された大皿(尺皿)には、染付で徳川家の家

が用いられている。また、平戸家臣の野元家の文書には、平戸藩御用絵師の片山尚仙が描いた京都の草花図を三川内皿山の陶工に渡したと記されていることから、御用絵師との協力体制の下で、三川内皿山の陶工は日本画の技術を高度に習得し



〒859-3151 佐世保市三川内本町343番地
0956-30-8080
9:00~17:00
年末年始(12月29日~1月3日)
入場無料

自慢の体験プログラム

自然現象をわかりやすく理解!

がまだすドーム (雲仙岳災害記念館)

自慢の体験プログラム、今回はリニョールを終えた「がまだすドーム」雲仙岳災害記念館にお邪魔しました。館は平成14年(2002)にオープンして以来、雲仙岳災害の継承、防災



がまだすドーム

教育の拠点として親しまれてきましたが、今回のリニョールでは施設のレイアウト変更などのハード面は



白衣を着て火山実験

次に紹介するのは「ミニ火山をつくる」というワークショップです。乳酸

最後に紹介するのは屋外でおこなわれている全国でも類をみない実験です。これはおよそ1000度の溶岩を作りだす実験で、真つ赤に溶けた溶岩がジオラマの山を流れる様子は迫力満点



〒855-0879 島原市平成町1-1
0957-65-5555
9:00~18:00(入館17:00まで)
年中無休 ※メンテナンス休館あり
大人 1000円、中高生 700円、小学生 500円
※団体割引あり
※体験プログラムは事前にHP等で確認のこと

ラムのさらなる充実もはかられました。まず今回新設されたワンダーラボでおこなわれているワークショップ



ミニ火山をつくる

の色に着色することでアートの必要な要素も加わります。取材当日も子どもたちによるカラフルなミニ火山が続々と誕生していました。



溶岩を作り出す実験

今回の取材したのが休日ということもあり、館は多くの子供連れでにぎわっていました。これからの地域をなう子供たちの明るい笑顔が、島原の復興を象徴していました。



展望所から見た普賢岳(平成新山)

若者アート「LOVE♥ながさき」 創造プロジェクト

若者の「ながさき愛」を高めたい！

2018年から長崎が誇るしまを中心に文化芸術で様々な交流を図る「長崎のしまの芸術祭」と併せて実施している県の人材育成事業。県内外の若者の人材発掘を目的に、地元大学等と連携し、若者の郷土愛を深め、Uターン者増加、若者人口の定着を目指します。2年目を迎える今年は映画、ダンス、音楽など多岐に亘るイベントを実施しました。参加した学生からは、「この経験を今後に活かしたい」など嬉しい声が届いています。学生の皆様のご参加、お待ちしております。



《長崎しまの芸術祭》



Facebook



Instagram

SASEBO DANCE PORT



アメリカ文化香る佐世保の街で、ダンスパフォーマンスやバトル、ワークショップなどを通じ、県内のダンスパフォーマンスの育成を目指します。

OMURAミュージック・キャンプ2019



東京藝術大学の一流講師陣によるハイレベルなマスタークラスと成果発表を実施しました。

日露交歓コンサート2019in佐世保



ロシアの世界的な一流音楽家によるクラシックコンサートを開催しました。本番前日には、ロシア音楽家によるアルカス SASEBOジュニアオーケストラメンバーへの熱い指導が行われ、コンサート当日には素晴らしい演奏を披露しました。

第3回渋谷TANPEN映画祭 CLIMAX at 佐世保2019-20



“させば四ヶ町”と“渋谷センター街”の親善イベント。国内外から渋谷に集まった短編映画を渋谷・佐世保で毎月上映会し、2月に佐世保でゴールドエンバガー賞を決定する映画祭。運営には長崎国際大学、長崎県立大学が参加しています！

第9回雲仙マーチングクリニック



マーチング愛好者が集まり、全国的に著名な講師の指導のもと、クリニックを開催し、最終日にはフィナーレで成果を披露しました。

満月BAR



長崎県美術館で、ミュージックライブや美術館ワークショップなどの文化芸術に触れる場と、長崎の食と県産酒を味わいながら人と人が交流するイベントを長崎大学の大学生が企画・運営に携わり開催しました。



鍋島邸(三の丸跡高台から撮影)



整然とした石垣

当時の面影をのこす町並み

鍋島邸内

建物探訪

古き町並みの美 神代小路

雲仙市神代小路 重要伝統的建造物群 保存地区



雲仙市神代小路重要伝統的建造物群保存地区(神代小路地区)には、神代川とみ

のつる川に囲まれた古い町並みがほぼ江戸時代の姿のまま遺されています。

神代小路地区は、17世紀後期に4代目領主・鍋島高就が、周囲の川や田を埋め立てて築造しました。今も当時の地区割りを見て取ることができ、水路・生垣・石垣など多くの遺構が、整然とした美しさを保っています。その集落は横道小路・本小路などによって縦横に区画されています。出入口は三か所で、全て枳形に固められており、武家地の特徴である封鎖的な空間が構成されています。今も豊かな緑に囲まれています。川が昭和43(1968)年から45年にかけて改修され前は、その川沿いに

も木々が茂っていたそうです。神代小路地区の中心にあるのが、国の重要文化財に指定されている領主・鍋島氏の陣屋敷(鍋島邸)です。入り口は、元禄期に建てられた約30mの石垣とそれにつづく長屋門です。邸内の建物には昭和になされた造作もあり、近代和風住宅の秀作でもあります。主屋横には植樹された三本の緋寒桜があります。最も古いものは大正時代に植えられたと言われています。2月〜3月頃は濃い紅紫色の花で屋敷を華やかに彩っています。また枯山水の庭園があり、その奥には見事な梅やツツジが植えられており、訪れる観光客を楽しませてくれます。この庭園は高台の鶴亀城二の丸跡まで続いており、ここから、鍋島邸全体を鳥瞰できます。庭園の面積



- 〒859-1303 長崎県雲仙市国見町神代丙103番地1(鍋島邸)
- ☎ 0957-37-3113(雲仙市教育委員会生涯学習課)
- 🕒 鍋島邸: 10:00~17:00(但し入場は16:30まで)
- 🕒 鍋島邸: 毎週月曜日
※月曜日が祝日の場合は開館し、休日でない翌日休館
12月27日から翌年1月5日まで
※その他都合により変更する場合があります。
- 🎫 無料、鍋島邸: 大人300円、小中高生200円。
※障害者手帳をお持ちの方や団体(15名以上)は、割引あり。
- 🆓 無料
※神代小路地区を見学の際には、お住まいの方々への配慮をお願いします。

はおおよそ3000㎡と広大です。平成17(2005)年7月、神代小路地区は伝統的な地割と建造物群が保持されていることから、文化庁より重要伝統的建造物群保存地区(伝建地区)に選定されました。また翌年には美しいまちなみ大賞(国土交通省)を受賞しました。このように、伝統的な美しさを保っている神代小路地区ですが、今も一般の方にお住まいの居住区でもあります。まさに「生きた文化財」と言えるでしょう。

今に息づく 黄檗文化と隠元禅師

～隠元禅師東渡365周年記念～



日中シンポジウム

日中シンポジウム「隠元禅師と黄檗文化」 ～『絆』・『感動』・『文化交流』が生み出す新たな価値～

昨年(2019年)の6月30日長崎県・長崎市・長崎大学の共催により、日中シンポジウム「隠元禅師と黄檗文化」を開催しました。中華人民共和国習近平主席、友好県省の福建省委員会于偉国書記からお祝いのメッセージもいただきました。

開会式において、日本礼道小笠原流長崎支部の皆様にお茶の点前をご披露いただき、東彼杵産の天皇杯受賞逸品茶が来場者に振舞われました。

NPO法人長崎史談会の原田博二会長より「隠元禅師と黄檗文化」の基調講演、若木太一長崎大学名誉教授には「隠元—『万国の春』を心に」をご講演いただきました。

中国福建省人民政府外事弁公室の王天明主任、福建省仏教協会主持工作常務副会長普法大和尚を団長とする仏教協会訪問団等計100名程度、中華人民共和国駐日本大使館の郭燕公使、駐長崎総領事館の劉亜明総領事、黄檗宗管長近藤博道猥下、黄檗宗僧侶、宗教者懇話会、華僑華人、研究者をはじめ、長崎県民等約600名の方にご来場いただきました。

シンポジウムに先駆けて、隠元禅師「初登宝地」の興福寺で隠元禅師東渡365周年記念イベントが開催され、廈門の虎溪岩寺と黄檗文化交流を目的とする友好寺院の締結が行われました。また、虎溪岩寺の浄心住職には、日中黄檗文化交流に尽力された功績から、中村知事より「長崎奉行」を贈呈されました。

今後も隠元禅師ゆかりの寺院は、黄檗文化交流や街のミュージアムとして情報発信の役割を果たしていただくことが期待されます。

日中シンポジウムの一環として、訪問団はゆかりの寺院と交流を行い、長崎歴史文化博物館の視察、隠元禅師の足跡を辿り宇治萬福寺とも交流を行いました。

次世代継承への取組

隠元禅師の顕彰及び黄檗文化の次世代への継承のため、県職員の研修や大学生を対象に講座を開催する取組を行っています。



長崎大学での講義

昨年、長崎大学で約130名、台北国立芸術大学からの訪問団22名、中国の廈門大学嘉庚学院で70名が受講されました。学生の皆さんは当たり前には日本文化と考えていたものが実は黄檗文化にルーツがあることに驚き、また長崎県が日本の他の自治体に先がけて隠元禅師の顕彰や黄檗文化交流を行っていることに興味を持っていました。

生涯学習講座の開催

長崎県年金協会「年金の集い」にご参加の皆さま



隠元禅師東渡365周年記念 友好寺院締結 長崎 東明山 興福寺 30th June, 2019

んに「隠元禅師と黄檗文化」の講演を行い、5回で延べ501人が受講されました。

学さるくの実施

10月に興福寺及び皓台寺、11月に福濟寺及び聖福寺を見学後、52名が煎茶や普茶料理を体験されました。参加された方々に大変好評を得て、次年度は春と秋に2回開催する予定です。

九州では、現在普茶料理を体験できる場所は興福寺と聖福寺のみです。この機会にぜひ、ご賞味ください。

中国政府要人の 隠元禅師「初登宝地」興福寺の視察

9月に孔鉉佑駐日中国大使が興福寺を訪れました。また、11月に福建省委員会于偉国書記一行が本県を訪問し、興福寺を視察され、中村知事との会見で今後青少年交流や黄檗文化交流を強化していきたいと話されました。

広報活動

長崎県では、隠元禅師の関連記念日に関するストーリーの構成を行い、日中の記念行事の情報発信や相互に参加できるような企画や協力を行っています。また、これらの歴史的素材を観光客誘致に生かす取組も始めています。

昨年9月に国立劇場で10年ぶりに黄檗宗の梵唄の公演があり、1500席の会場が満席になり、中国語での読経の人気ぶりが窺えました。

6月の隠元東渡日本記念日に、隠元禅師が祖国

を離れた最後の地である廈門において隠元禅師東渡記念石碑を建立し、11月には隠元禅師像及び隠元禅師東渡記念図が建立されました。

また、10月「中国漳州・南山の光」一帯一路関連イベント、11月福建省福清市万福寺の竣工式や「第1回国際黄檗禅シンポジウム」に参加し、隠元禅師来日に長崎が果たした役割等についての論文を発表しました。



青少年少林武術交流

このほか、中華人民共和国駐長崎総領事館の協力により、県内マスコミ9社が福建省で取材、12月は福建省からマスコミ2社が来日され隠元禅師ゆかりの寺院や黄檗文化の取材を行いました。

2020年は隠元禅師出家400年、興福寺創建400周年、中華人民共和国駐長崎総領事館設立35周年を迎えます。

また、2022年は隠元禅師大遠諱350年、日中国交正常化50周年、長崎県と福建省の友好県省締結40周年にあたりますので、日中において黄檗文化交流がさらに活発に行われる予定です。